

対馬市エコツーリズム推進協議会

設立趣意書

対馬は九州本土と朝鮮半島の間に飛び石的に位置する「国境の島」です。その地理的背景から、太古の昔より、文化・技術の中継点として、大陸と日本との交流の中枢を担ってきました。様々な人の往来によって、文化や技術が大陸からもたらされる玄関口になった対馬は、日本のルーツが見えるクロスロードとも言えます。自然史的にも、かつて大陸と日本とが陸橋として繋がっていた時代の痕跡を今に留め、大陸系、日本系、対馬固有種が入り乱れる唯一無二の独自の生態系を有しています。対馬の自然は、渡り鳥の中継地として、あるいは東シナ海と日本海をつなぐ好漁場として、陸域・海域共に、他の地域との結節点となる極めて貴重な自然資源と言えるのです。

わたしたちには、こうした貴重な地域資源を未来へとつなぐ責任があります。

そのためには、対馬市民が一丸となって、地域資源の価値を認識し、その価値を伝え、大切に磨き上げていくことが必要です。対馬の貴重な自然・歴史・文化的資源が、その価値の共有がなされることなく、無秩序に消費されていくだけの観光では、対馬の未来はありません。「地域資源を保全しながら適切に活用していくことで、地域振興との両立を図り、持続可能な地域づくりを目指す」というエコツーリズムの理念に基づく観光振興が必要不可欠なのです。

そこで、エコツーリズムを通じて、対馬の自然・歴史・文化的資源を持続的に保護し、適切に活用することで地域振興を図るとともに、持続可能な社会の創造に寄与することを目指し、ここに対馬市エコツーリズム推進協議会を設立いたします。

令和6年12月5日

対馬市エコツーリズム推進協議会 設立発起人
一般社団法人対馬里山繫営塾 川口幹子
一般社団法人対馬里山繫営塾 藤川あも
一般社団法人対馬観光物産協会 村瀬早紀